

TPCで協働学習

国語科で活用型学力

立 守
市 口
小 波
学 小
校 学
校 校

パナソニック教育財団による助成を受け、各校では本年度の取り組みが始まっている。

第37回実践研究助成特別研究指定校である守口市立橋波小学校（大阪府）では、総務省の平成22年度「絆プロジェクト」により4年生以上の児童1人1台にタブレットPC（以下、TPC）が配備されており、本年は「電子黒板やTPCなどを用いた活用型学習の実践事例の創造」を研究テーマに取り組んでいる。

橋波小学校で5月13日に6年国語科で授業が公開され、個人学習、意見交流、ペア学習、情報の収集・整理などにTPCが使われた。TPCは、国語デジタル教科書（光村図書）、電子黒板、アドバンテージクラス（インフィニテック）、コーポノート（J.R.四国）と

授業の最初は漢字ソフトを使い、5分間の個人学習を行った。

その日の学習は、説明的文章「生き物はつながりの中に」で、本物のイ

ヌとイヌ型ロボットとを比べながら、生き物の特徴を読み取っていく単元だ。6時間授業の1時間目。

最初に「ロボットのイヌと本物のイヌの違いを考える」という課題について個人の考えをTPCのコーポノート上に書いていく。その後、4人1班で意見交流をする。コーポノートを使うと他の子どもの書き込んだ意見も見えるので、じっくりと意見交換ができる。意見交流の際、TPCは1班で1〜2台とし、使わないTPCは机の中にしまわれた。

次に、2人1組になり、他グループで入力された

意見を読み、「ガリレオポイント」に付箋をつけていく。「ガリレオポイント」とは、他の人の意見について自分が思いつかなかった部分や、なる

ほとんと思った部分のことを指す。最後に、これまでの意見交流などを通して学んだことについて個人でまとめ、電子黒板を使って



自分の考えをTPCで熱心にまとめる

発表し合うという流れ。授業後の研究協議会では、思考・表現、ICT活用、協働学習の3テーマに分かれ、討議が行われた。「児童1人1台の環境となった場合、1人で考えるのか、ペアで考えるのがよいのか。バランスに悩む」という声も聞かれた。同校では引き続きTPCや電子黒板活用のベストバランスと協働学習スタイルの効果的な進め方について検証を続けていく考えだ。